

- 1 開催日時 令和5年10月18日(水) 午後2時から4時まで
- 2 開催場所 静岡県立三島北高等学校 応接室
- 3 出席者 (1)令和5年度 学校運営協議会委員(5名、敬称略)
出席…浦川加代子、千葉愼二、土屋賢太郎、福田清一、山下聖秋
欠席…清水晃
(2)学校代表(4名)
出席…高橋健二(校長)、勝間田浩文(副校長)、増田佳子(教頭)
村松弘文(事務長)
- 4 議事(次第)
 - 1 校長挨拶
 - ・来年度の1年生から文理選択を2年次に行う。
 - ・次年度の修学旅行の旅行先はシンガポール。令和6年度入学生以降については、円安・物価高騰の中シンガポールへの修学旅行の継続は難しいので、台湾を検討中ある。
 - ・5/21の第1回学校運営協議会以降、グローバルスタディーズプログラム・ベトナム研修・オーストラリアの高校生受け入れ・修学旅行など計画通り行っている。4年ぶりに実施できたものもありコロナ禍以前に戻っているが、その分、教員の負担も増しており、見直しが必要な部分もある。
 - ・心理的な理由から不登校になる生徒も増えている。
 - ・PTAは様々な活動が4年ぶりに行われた結果、組織の見直しや業務分担の再編等を進める動きが出てきている。
 - ・本日は第2回目となる。今回は、学校・生徒の様子を見ていただき、お気づきの点や、御意見、御助言をいただきたい。
 - 2 授業参観(6限)
 - 3 学校の教育活動について
 - (1)本校の教育活動に関する中間報告【学校】
(意見)
ア 本校の学校行事等の新聞記事の紹介
 - ・三島市国際交流協会の交流行事には箏曲部が関わることが多い。三島市は、アメリカ・パサディナ市、ニュージーランド・ニュープリマス市と姉妹都市を、中国・麗水市と友好都市を結んでおり、これらと交流を行っている。海外との交流ができることは学校の魅力につながる

ことであるから、三島市国際交流協会とも連携して、本校生徒と海外の方との交流を推進してはどうか。【委員】

イ ベトナム研修の報告

- ・参加生徒の支援を充実させるため支援体制を整えることは難しいが、本校の魅力となるものであり、広く生徒に門戸を広げられるとよい。【委員】

ウ グローバルスタディーズプログラム

- ・参加生徒の感想から英語力向上のみならず、リーダーシップの育成や社会課題に視点が向くことにも利点がある事業と感じた。【委員】

エ その他

- ・コロナ禍明け様々な学校行事が以前のように実施できるようになってきたが、働き方改革を求められている今、本当に必要とするものを見極めることが大切と考えている。【学校】

(2) 本校の教育活動に関する質疑・意見交換

○学校における働き方改革

教師を取り巻く環境（生徒指導・保護者対応・部活動が負担の大きいところ）について御意見をいただきたい。【学校】

(意見)

- ・中学校でも教員の時間を割かれるところは同じで苦勞している。【委員】
- ・長期休業明け、上手くスタートが切れない、学校に登校できない生徒も増えているように感じる。そういった生徒に教員は一人ひとり丁寧に対応している。【学校】
- ・現在、精神保健では、不登校の背景には起立性調節障害が隠れていることがあり、身体的なことも考えることとなっている。【委員】
- ・不登校を「問題」と捉えるか、「成長のプロセス」と捉えるかで子供への負担は変わってくる。スクールカウンセラーを活用し、親への心理教育、相談体制も必要ではないか。【委員】
- ・教員は仕事量が多い。分業しないと大変ではないのか。心理教育はSC、部活動は部活動支援員。【委員】
- ・外部人材との分業を進めるにはお金がかかる。【学校】
- ・中学校は部活指導についてほぼ専門の人はいないと思う。文部科学省は部活動を地域移行することを進めているが、今年あたりから移行に幅を持たせるようになってきた。教員の中にはやりたい人もいるからそういう人は兼職という形でやれるといいと思っている。【委員】

○教員の働き方について思うことはあるか。【学校】

(意見)

- ・残業が多い。【委員】
- ・もっと人がいればいいのかもしれないが、人がいない。【学校】
- ・親が変わってきている。【委員】
- ・教員もこの変化に応じて変わる必要がある。【学校】
- ・教員には対応のスキルが必要。【委員】
- ・専門家が一緒に対応したり、アドバイスする。そういった体制ができれば精神的な負担が軽減するのではないか。【委員】

- ・中学校は SC、SSW が入って来て大変助かっている。本人にもアドバイスしてくれ、学校にも対応についてのアドバイスをしてくれる。中学校も不登校が増えている。今年度三島市が不登校支援員を配属し、大変助かっている。【委員】
- ・ボランティアを募集したらどうか。【委員】
- ・中学校はボランティアを集めている。地域の方（高齢者など）がボランティアとして関わってくださり、剣道部の指導や書道の指導等を行っている。【委員】

○校則の見直しを求められている。本校は女子の髪を肩のラインより長い場合は縛らせているがそれについてどのように考えられるか。【学校】
(意見)

- ・縛らせてもよいのではないか。【委員】
- ・説明のつかない規則はなくしてもよい。【委員】
- ・誰が考えてもおかしいものは見直した方がよい。見方を変えれば説明がつくものはよいのでは。【委員】
- ・学校での教育＝集団の中で個をどのように調節するか、生活の中で矛盾を考えること、ルールの中で自分たちはどう暮らすかを考えることが大切。【委員】
- ・看護では身だしなみは患者に信頼されるためにしっかりするものである。校則は 123 年間の伝統であり、大事にすべきもの。【委員】
- ・サッカーワールドカップで日本のファンがスタジアムのごみを回収してきれいにして帰ったことが世界中で賞賛された。別にスタジアムのキーパーがいるのだからやらなくても良いことであるが、その姿勢を評価された。古臭いけどやってみたら評価に値するものであった。髪を縛ることも同じで、古臭いけどやってみたら北高の良さになるのではないか。【委員】

4 その他

(1) 会議日程の確認

第3回 令和6年2月7日（水）午後2時（主な議題は学校自己評価）